

多発性骨髄腫研究助成 2012 年研究課題選考会総括

上記選考会を 2011 年 8 月 27 日名古屋安保ホールにて日本骨髄腫患者の会・副代表上甲恭子様お立ち会いのもと、応募のあった基礎研究 6 題と臨床研究 4 題について各研究の「重要性・妥当性」「計画・方法の妥当性」「独創性・革新性」「波及効果・普遍性」「遂行能力・研究環境」の 5 つの評価項目及び総合評点について 5 名の選考委員の採点結果を集計し、更に各申請研究に対する講評も考慮した上で、下記の研究課題を採択した。

(基礎研究部門)

- 1 位 堀之内朗記念助成 秋田大学大学院医学系研究科 田川博之先生
「多発性骨髄腫幹細胞における治療標的遺伝子の探索」
- 2 位 杉特別助成 東海大学創造科学技術研究機構医学部門 幸谷愛先生
「多発性骨髄腫の発症予防にむけて」

(臨床研究部門)

- 広島大学病院放射線診断科 高須 深雪先生
「3T-MRI を用いた多発性骨髄腫の fat fraction analysis」

提案された基礎研究はいずれも、難治性疾患である多発性骨髄腫の分子標的治療乃至は薬剤耐性の克服に向けたもので、多発性骨髄腫基礎研究の裾野の広がりを認識させるものであり、今後の発展を大いに期待させるものでありました。臨床研究は新規薬剤を中心とする深い奏効を実現する治療法の輩出する現況を反映して、微小残存病変を検出する分子生物学的手法や、症候性となる以前の臓器障害を新しい検査手法で検出しようとするもので、何れも興味深いものでありました。

2011 年 8 月

日本骨髄腫患者の会研究助成 選考委員会委員長
日本骨髄腫研究会代表幹事
清水 一之